

各 関 係 機 関 長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病 害 虫 発 生 予 察 情 報 に つ い て

病虫害発生予報第3号を下記のとおり発表したので送付します。

平 成 24 年 度 病 害 虫 発 生 予 報 第 3 号

平成24年 5月31日
岡 山 県

予 報 概 評

作 物 名	病 害 虫 名	発 生 時 期	発 生 量
水 稻	葉いもち ヒメトビウンカ 縞葉枯病 ツマグロヨコバイ ニカメイガ	並 — — — —	並 並 やや少 やや多 並
ジャガイモ	疫病	並	並
モ モ	灰星病 黒星病 せん孔細菌病 モモハモグリガ ナシヒメシンクイ カメムシ類	— やや遅 やや遅 — — —	やや少 少 やや少 やや多 やや多 並
ブドウ	べと病 うどんこ病 灰色かび病 フタテンヒメヨコバイ	やや遅 やや遅 やや遅 やや遅	やや少 並 並 並
トマト	疫病 灰色かび病 葉かび病	— — —	やや多 並 並
キュウリ	べと病 褐斑病 炭疽病	— やや遅 並	並 やや少 並
ダイコン	軟腐病 コナガ	やや遅 —	やや少 少
野菜全般	アブラムシ類 モザイク病 ミナミキイロアザミウマ	— — —	並 やや少 並
キ ク	白さび病 ナミハダニ	— —	並 やや少

2. 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病 (早生種)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月21日の巡回調査によると、芽枯れ、枝病斑の発生量は平年より少ないことから、幼果への感染量も平年より少ないと考えられる。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温および降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 少

予報の根拠

ア. モモの生育は平年よりやや遅めで推移している。

イ. 5月21日の巡回調査によると、枝上の越冬病斑密度は、平年より少なかった。

ウ. 幼果における本病の潜伏期間は約35日（果実生長第2期以降は20日）とされている。5月の降水量は平年より少なかったため、幼果への感染は平年より少ないと考えられる。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月21日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（9.6%）より低かった。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温および降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(4) モモハモグリガ (第2世代幼虫)

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～5半旬の誘殺数は33頭で平年（25.9頭）よりやや多かった。

イ. 5月21日の巡回調査によると、発生程度は低いものの発生圃場率は32.1%で平年（3.2%）より高かった。

ウ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

エ. 平成24年度植物防疫情報第3号参照。

(5) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、5月1～5半旬の誘殺数は14頭で平年（4.9頭）よりやや多かった。

イ. 5月21日の巡回調査における心折れの発生圃場率は7.1%で平年（3.5%）よりやや高かった。

ウ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(6) カメムシ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における5月1～5半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は66頭で平成(35.8頭)よりやや多かった。

イ. 前年のスギ・ヒノキ花粉飛散数を利用した予測式によると、本年4～7月の予察灯への飛来数は、チャバネアオカメムシは赤磐市で495.1頭で平成(486.4頭)並、津山市で201.3頭で平成(327.5頭)よりやや少ないと予想される。クサギカメムシは赤磐市で28.9頭(平成16.6頭)、津山市で268.5頭(平成198.0頭)であり、平成よりやや多いと予測される。

(ブドウ)

(1) ベと病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は平成よりやや遅く推移している。

イ. 県予察圃場のベリーA(無被覆栽培)において、5月30日まで発生を認めていない(平成:6月4日)。

ウ. 5月21日の巡回調査では、平成同様発生を認めなかった。

エ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温および降水量は平成並とされており、発病を助長する条件ではないが、梅雨入りが早いと発生を助長する条件となる。

(2) うどんこ病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウ(ピオーネ)の生育(開花期)は平成よりやや遅く推移している。

イ. 5月の日照時間は平成より多く、本病の発生を助長する気象条件であった。

ウ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温および降水量は平成並とされており、発病を助長する条件ではない。

(3) 灰色かび病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. ブドウの生育(開花期)は平成よりやや遅く推移している。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温および降水量は平成並とされており、発病を助長する条件ではない。

(4) フタテンヒメヨコバイ

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月21日の巡回調査における被害発生圃場率は8.3%で、平成(4.2%)よりやや高かった。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温は平成並とされており、発生を助長する条件ではない。

3. 野菜

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場（5月9日定植）では、発生を認めていない。

イ. 5月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は11.8%で平年（1.4%）より高かった。

ウ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温および降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 灰色かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場（5月9日定植）では、発生を認めていない。

イ. 5月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は29.4%で平年（28.7%）並であった。

ウ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温および降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(3) 葉かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場（5月9日定植）では、発生を認めていない。

イ. 5月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は29.4%で平年（28.7%）並であった。

ウ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温および降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 本病の初発生時期（雨除け栽培トマトでは6月下旬～7月上旬）と病勢進展時期（7月下旬～8月上旬）に効果の高い殺菌剤を予防散布する防除体系は、葉かび病の防除に有効である。

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は22.2%で平年（33.5%）並であった。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温および降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(2) 褐斑病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（25.5%）より低かった。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温および降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 被害葉は初期に除去し、処分する。

イ. 岡山県下ではトップジンM水和剤耐性菌が広く確認されているが、ジマンダイゼンフロアブル、ダコニール1000などによる病原菌感染前の予防散布が有効である。

(3) 炭疽病

予報内容

発生時期 並 発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温および降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査では発生を認めず、発生ほ場率は平年(2.9%)より低かった。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温および降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(2) コナガ

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 赤磐市における5月1～5半旬のフェロモントラップへの誘殺数は0頭で、平年(52.9頭)より少なかった。

イ. 5月24～25日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(57%)より低かった。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性のモザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 並
モザイク病 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市における5月1～5半旬の黄色水盤への飛来数は289頭で、平年(388.3頭)よりやや少なかった。

イ. 5月24～25日の巡回調査によると、アブラムシ類の発生量は平年並であった。モザイク病は発生を認めず、発生ほ場率は平年(キュウリ:2.3%、トマト:3.6%)より低かった。

ウ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温および降水量は平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査によると、ナスでの発生量は平年並であった。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温および降水量は平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

4. 花 き

(キ ク)

(1) 白さび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査によると、発生圃場率は24.0%で平年（30.0%）並であった。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温および降水量は平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(2) ナミハダニ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 5月24～25日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（4.8%）よりやや低かった。

イ. 5月25日の季節予報によると、6月の気温および降水量は平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。